

暑熱期における脂肪酸カルシウムの給与による黒毛和種子牛の発育の改善

要約

暑熱期(6~9月)において、黒毛和種子牛に1日1頭あたり脂肪酸カルシウム50gを給与することにより、給与しない場合と比較して、子牛の発育が向上することが示唆された。

○ 展示のねらい

暑熱期の食欲減退による栄養不足は、肉用牛の発育低下を招き、経済的な損失が生じる。そこで、暑熱期の栄養補給を図るため、高栄養でルーメンバイパス性の脂肪酸カルシウムを肉用牛に給与し、発育向上のための技術実証を行った。

供試頭数は5頭(去勢4頭、雌1頭)とし、暑熱期(6月~9月)に1日1頭あたり脂肪酸カルシウム50gを飼料の上にトップドレスで給与し、発育への影響(胸囲、腹囲、推定体重)を調査した。なお、対照区は、脂肪酸カルシウムを給与していない令和4年度の結果とした。

表1 対照区及び試験区における開始時の日齢及び体重

	対照区(令和4年度)	試験区(令和5年度)
日 齢(日)	52.2 ± 8.4	60.0 ± 15.6
体重(kg:推定値)	82.4 ± 14.6	83.2 ± 17.4



脂肪酸カルシウム

○ 主な成果

暑熱期において、黒毛和種子牛に1日1頭あたり脂肪酸カルシウム50gを給与することにより、子牛の栄養補給になるとともに、飼料(特に粗飼料)の摂取量の増加が促進され、発育の向上につながることが示唆された。

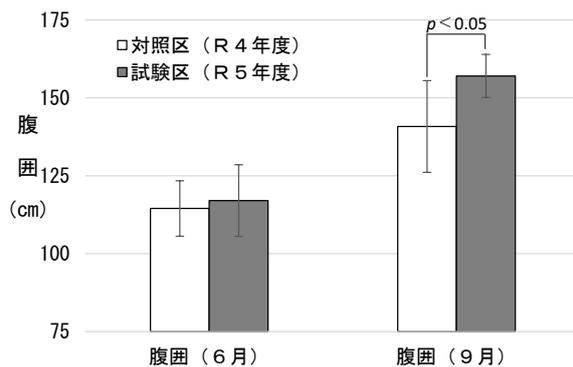


図1 腹囲の測定結果

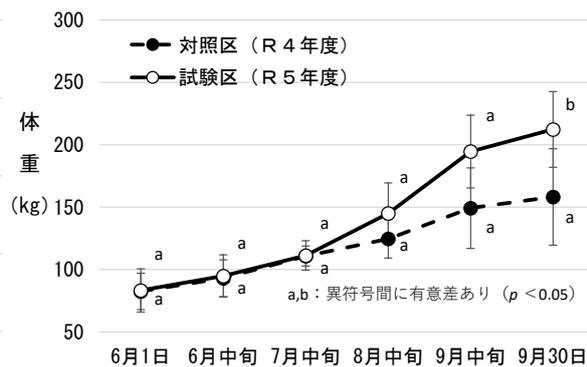


図2 体重(推定値)の推移

○ 今後の方向性

脂肪酸カルシウムの費用対効果を考慮した上で、暑熱対策の方法の一つとして普及を図る。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：益子町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315